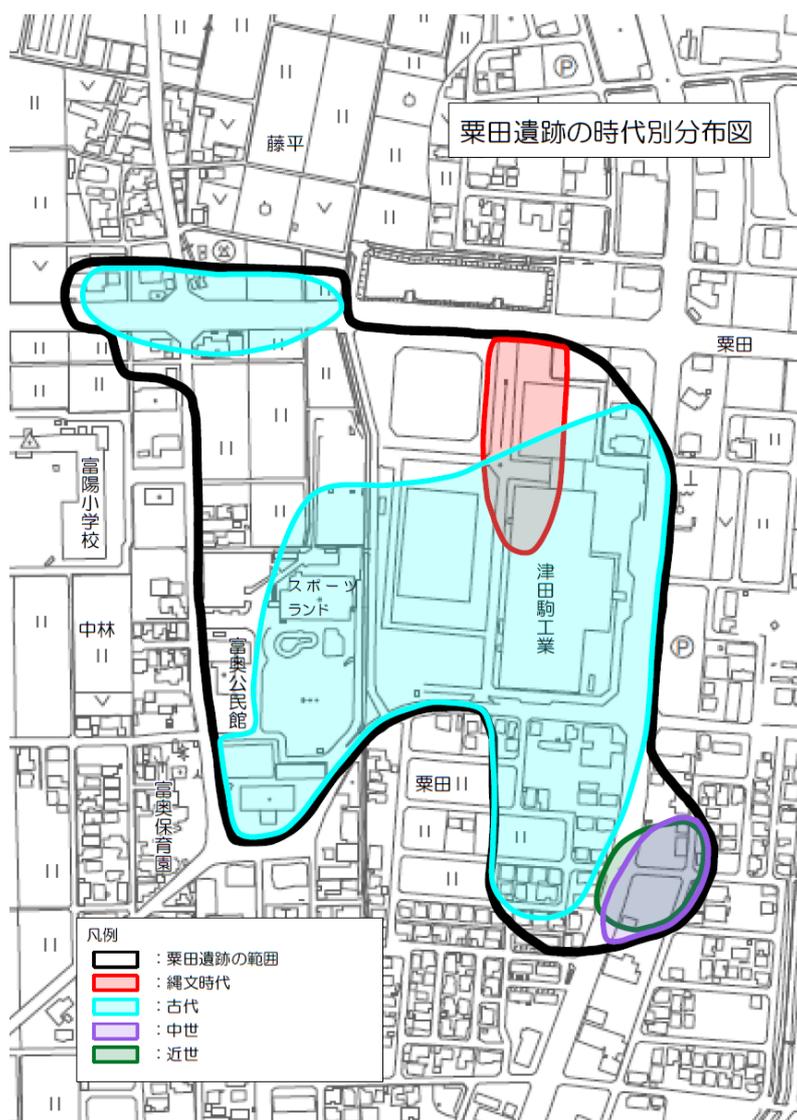


あわだ 栗田遺跡

栗田遺跡は、栗田5、6丁目から^{ふじひら}藤平、^{なかばやし}中林5丁目にかけて、南北約600m、東西約500mの大きさをもつ遺跡です。遺跡の場所は、手取川扇状地の扇中央部東寄りで、標高は約35mを測ります。

栗田遺跡一帯は、手取川から枝分かれした小河川がいくつも流路をつくり、その間に細長い島状の^{びこうち}微高地が形成されています。遺跡はこの微高地の上に立地します。また、一部では河川によって運ばれてきた^{いしれき}石礫が、一面に^{ろしゅつ}露出する箇所を見ることができます。

栗田遺跡は、1989年（平成元）より、工場、スポーツ施設、農協施設の建設や、土地区画整理事業に伴う発掘調査が継続的に実施され、縄文時代の石器^{そざいさいしゅ}の素材採取地、古代、中世、近世の集落跡を確認でき、手取川扇状地の歴史の実態解明に、大きな成果をあげることができました。



栗田遺跡の時代別分布図